災害に備える

地震や火事が発生したときに，自分や友達の命を守るためには，ふだん行われている学校の避難訓練に真剣に参加することが大切です。また，地域の防災訓練にも参加すると，地域の一員として何ができるかを知ることができます。

1 学校の避難訓練

学校では，地震や火災を想定した避難訓練に加えて，津波を想定した訓練や通学路の安全を確認する登下校訓練なども行われるようになりました。災害の種類や発生の時間帯，場所などのちがいによってどのように行動するかを身に付けましょう。

避難訓練に変化

東日本大震災を教訓に，学校で行われる避難訓練が変わってきています。

○津波で被災した宮城県亘理町の中学校

近くに高台がないので，約2.5kmはなれた避難場所まで，生徒全員が自転車で約30分かけて避難する訓練を行っています。

○愛知県の小学校

約1.3kmはなれた高台まで走って避難するために，週３回，持久走を行っています。また，校舎から外へそのまま出て走ることができるように，上ばきをマジックテープ式のジョギングシューズに変えました。

○東京都の小学校ほか

緊急地震速報を避難訓練で活用したり，予告をしないで訓練を行ったりして，急に地震が起きたときに備えた訓練を行っています。

みなさんの学校の避難訓練では，どんな工夫を行っていますか？

2 地域の防災訓練

茂庭台地区の小中学生は，地域に住む人たちといっしょに防災訓練を行い，災害に備えています。

＜中学生はこんな手伝いをしています＞

・仮設トイレの設置

大人とともに仮設トイレの組み立てをしました。また，プールの水をバケツにくんで，避難所のトイレに運ぶことも行いました。

仮設トイレの設置

・炊き出しの補助

食料の炊き出しをするとき，配膳の手伝いをしました。また，物資を取りに来ることができない近所のお年寄りや小さい子どもがいる家に飲料水や食料などを届けました。

炊き出しの手伝い

考えよう

○みなさんが中学生になったときに，地域の防災訓練などでどのような活動ができるか考えてみましょう。また，小学生で取り組める内容についても考えましょう。

地域とのつながり

阪神・淡路大震災があった神戸市では，すべての小学校区に地域防災福祉コミュニティが作られています。ふだんから地域安全マップの作成，防犯活動，地域のお年寄りを訪問する福祉活動などを行って，災害が起きる前から地域の人々のつながりを大切にしています。

仙台市でも，東日本大震災をきっかけに，それぞれの地区で総合防災訓練が実施されるなど，「地域とのつながり」が見直されています。小中学生が育てた植物を仮設住宅に届けたり，地域の市民センター，公園，歩道などに置いて育てたりする取り組みも広がっています。

日頃の「よいまちにしよう」という一人一人の思いが地域とつながって，いざというときに，共に助け合える関係を作っておくことが大事です。

仮設住宅に届けた花